

2019 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本泌尿器科学会

正式名称

未来の卓越した泌尿器科医を創るグローバル人材の育成プログラム

医学教育事業の概要

全国の研修医対象のセミナー実施

最新医療機器の体験を兼ねた実技コンテスト、泌尿器科名医による講演、若手泌尿器科医や女性泌尿器科医とのディスカッションによる自身の将来像の描写

医学教育事業の対象者

主な医療関係者： 医師 歯科医師 薬剤師 看護師
 その他（ご記載ください。）

対象となる医療関係者の想定人数：80 人 X 3 回 + 100 人 X 3 回 = 540 人

医学教育事業の必要性 / 目的

我が国はかつてない超高齢社会に突入しているが、前立腺肥大症、前立腺癌、排尿障害などの代表的な泌尿器疾患はいずれも年齢依存性に罹患数が増加している。つまり社会の高齢化が進むほど泌尿器科医の果たす役割は大きくなることが予想される。

一方、日本泌尿器科学会会員の平均年齢は現在 50 歳で、40 歳未満は 26.8% に留まり、若い力は十分とは言えない。泌尿器科学会として社会のニーズに対応するには若手泌尿器科医の大幅な増加、未来の卓越した泌尿器科医を創る若手の育成は急務である。そこで本医学教育事業の目的は、将来の我が国の医療事情に対応するために、泌尿器科若手医師を育成することである。

医学教育事業の計画・方法等

本医学教育事業では全国の研修医を対象にしたサマースクールおよびウインターセミナー（いずれも 2 日間）を計画している。第 1 日目は医療用ロボットなど最新医療機器の実技体験、泌尿器科内視鏡学会のスペシャリストによるドライボックスを使った腹腔鏡技術講習とその技術コンテスト、泌尿器科領域専門部会長による講演を行う。第 2 日目は泌尿器科領域専門部会長による講演の続きと、技術コンテストの表彰をおこなう。これらのハンズオントレーニングや講演を通じて泌尿器科学の魅力、やりがい、奥深さを体感し、少人数グループで若手泌尿器科医や女性泌尿器科医と忌憚なく話せる「本音の会」によって自身の将来を想像させ、グループ対抗の腹腔鏡手技コンテストを介して全国の仲間と横の繋がりを創出する魅力あるプログラムを提供している。さらに、喜びの持てる働き方、個人医療レベルを如何に向上させるか、医師としてのプレゼンスの高め方、リーダーシップ、プロフェッショナルリズムの養い方など、重要なテーマに関する講義も予定する。

参加人数は、全国から 90 名を募り、好評度に応じて増減させる。プログラムは成果のフィードバックによって改良を重ねる。

医学教育事業の効果の測定方法

成果の測定方法としては、世界的に定着しているカークパトリックの 4 段階評価法のうちレベル 1 : Reaction レベル 2 : Learning で評価する。具体的には、アンケートによる参加者の満足度、充実感、泌尿器科の理解度を Visual Analogue Scale (VAS) で評価するとともに、参加者の声として感想を求め、次のプログラムの改善や効果測定に役立てる。また、実習ではタイムトライアルを実施し、実習前後の時間で上達度合いを計測する。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

年に 2 回を予定している集合研修の結果は、日本泌尿器科学会ホームページにて公開し、加えて毎年 4 月に開催される日本泌尿器科学会総会における代議員総会にて、2019 年度 GSK 医学教育助成の進捗状況を教育委員長から報告を行う。その他、参加者アンケート結果を関係者に共有し、次回への改善に役立てる。